

社団法人 日本補綴歯科学会 *Japan Prosthodontic Society*

発行人 平井敏博 編集 広報・社会連携委員会

〒 170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

社団法人 日本補綴歯科学会

Tel 03-5940-5451 Fax 03-5940-5630



Letter for Members No.25 2007

<http://www.hotetsu.com/> 2007. 7.10 発行

《コンテンツ》

新理事長挨拶	1
平成 19, 20 年度 (社)日本補綴歯科学会 役員・支部長会一覧	3
平成 19, 20 年度委員会活動方針	4
インド補綴歯科学会と学术交流協定を締結 9 IADR 学会賞受賞報告	10

第 12 回 ICP のご案内	11
GNYAP 大会のご案内	11
第 116 回学術大会・第 5 回アジア 補綴歯科学会レポート	12
支部学術大会予定一覧	23
関連学会案内	25
お知らせ	27

健康科学を基盤とした歯科補綴学の構築 —咬合・咀嚼が創る健康長寿の実現へ向けて—



社団法人 日本補綴歯科学会
理事長 平井敏博

この度、赤川安正 前理事長から、社団法人 日本補綴歯科学会 理事長の重責を引き継ぎました。皆様のご協力とご支援をいただきながら、精一杯努める所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、われわれ会員一同が、改めて、本会の目的を確認したいと思います。すなわち、私たちの(社)日本補綴歯科学会の定款・第4条には、国民の健康福祉の向上に貢献するために歯科補綴学の進歩普及を図ることが明記されております。この目的を果たすために、数年来の本会学術大会では

「咬合・咀嚼が創る健康長寿」とのメインテーマを掲げ、熱い討論を重ねるとともに、市民公開講座等を開催し、国民の健康・長寿・QOL に貢献する歯科補綴学と補綴歯科臨床の発展と、その周知に力を入れてきております。

ご承知のとおり、近年の先進国では、人口の高齢化によって健康問題と高齢者問題が重要課題となっております。これらの問題を解決するために、わが国においても、従来からの「外来診療」と「入院診療」に加えて「訪問診療」が新たに制度化されています。また「治療医学」「予防医学」とともに「リハビリテーション医学」が見直されています。必要に迫られての変革です。しかし、歯科補綴学ならびに補綴歯科臨床では、従来から、損なわれた形態的・機能的障害の改善や回復を目指す口腔リハビリテーションに努めております。そして、その究極的な目標は QOL の維持・向上であるといえます。今こそが、歯科補綴学とその臨床の重要性を人々へアピールするための絶好のチャンスであると思います。歯科補綴学研究と補綴歯科臨床の背景には広範な生命科学があり、さ

らに予防科学があります。これらを基盤として、身体・精神・社会的な面からのアプローチによって、生活に関する諸要因の健康へ及ぼす影響を科学的に究明し、その成果に基づいて健康の保持増進を実現することが健康科学としての歯科補綴学の存在意義であると考えます。

これらのために、今期の執行部では種々の委員会活動を行い、学会の活性化を図ってまいります。まず、従来の「医療問題検討委員会」「社会保険委員会」および「ガイドライン委員会」を統括する「医療委員会」と、学会を挙げての研究を企画し、実行するための「研究企画推進委員会」を新たに設置しました。補綴歯科臨床の健康へ果たす役割に関する科学的根拠を収集、蓄積し、学会の意見をわが国の歯科医療制度・政策へ反映させる提言を行うためです。さらに、安心、安全な補綴歯科治療を国民へ提供するためです。なお、「医療委員会」では、各歯科大学・歯学部および各都道府県や地域の歯科医師会およびそれらの社会保険委員会等との連携を図り、真に国民の健康維持の向上に寄与する補綴歯科治療の推進に努めます。

このためにも、まず、学会が一丸となって、「補綴歯科専門医」の広告開示の認可へ向けての作業を行い、一日も早い実現を目指します。専門医による適切な補綴歯科治療の遂行が必ずや国民への大きな福音となるはずで、「いわゆる難症例」に対しての十分な知識と技術を駆使した顎口腔機能の回復は、まさしく QOL の維持・向上に直結します。なお、「運営・研修部会」と「認定部会」からなる新設の「専門医制度委員会」では認定医・専門医の質の向上へ向けた施策の一つとして、筆記試験の導入を検討することに加えて、質の高い補綴歯科治療を実践するために、歯科技工士の学会との連携のもとに「補綴歯科専門技工士(仮称)」についての検討を開始します。

健康科学を基盤とした歯科補綴学の構築と推進のために、学術大会のさらなる充実が望まれます。本学会と関連が深い国内学会との Joint Meeting を開催し、わが国における歯科医療全体の質の向上に貢献することも必要です。これに関しましては「学術委員会」を中心に具体策を検討します。学会誌の発行を担う「編集委員会」では、特に英文誌(Prosthodontic Research & Practice ; PRP) の原稿の確保と内容の充実に努め、Pub Med への掲載を目指します。また、卒前・卒後の歯科補綴学教育に関しては、「教育問題検討委員

会」が中心となり、歯学教育モデル・コア・カリキュラムの見直し、学部学生および臨床研修医の臨床技術に関する調査等を実施する予定です。なお、「用語検討委員会」では、「歯科補綴学専門用語集」の改訂(第3版)へ向けた作業を行います。

「歯科補綴/補綴歯科」の国民へのさらなる周知を行うために、「広報・社会連携委員会」を設置し、「ホームページ・ニュースレター部会(HP・NL部会)」と「広報・社会連携部会」を設け、市民フォーラム等の企画を確実に学会内外に伝達するよう努めます。さらに、ホームページに掲載されている記事の著作権についての議論を継続します。また、「用語検討委員会」が中心となって、フリー百科事典「ウィキペディア(Wikipedia)」の書き込み作業を継続します。

また、国際交流の推進は、いうまでもなく学会としての重要な課題です。ご承知のとおり、平成19年度には、5月に神戸で AAP (Asian Academy of Prosthodontics) が、9月に福岡で ICP (International College of Prosthodontics) が、10月に東京・台場で GNYAP (Greater New York Academy of Prosthodontics) が開催され、また平成20年度の第117回大会(名古屋:田中貴信大会長)は、KAP (Korean Academy of Prosthodontics) との共催となります。これらの大会は、ぜひとも成功させなければなりません。「国際渉外委員会」には、これらについて学会を代表して支援していただきます。さらに、昨年度に締結された中国、インドとの交流活動を検討します。具体的には、第117回大会への CPS (Chinese Prosthodontic Society) および IPS (Indian Prosthodontic Society) 会員の参加の呼びかけを行います。

地味な仕事ではありますが、「規程検討委員会」には、新設された委員会等に関する規程の整備と、各種委員会での規程の見直しに対応していただきます。また「財務委員会」には、健全な学会運営のための検討を行っていただきます。なお、緊急の課題に対応するために「特命事項担当理事」を委嘱しました。

今期の理事・20名の平均年齢は約53歳であり、前期に比して4歳ほど若くなっており、若い力を結集して、さらなる本学会の充実、発展のために、また公益法人としての義務と責任を果たすために、精一杯の努力をいたします。よろしくごお願い申し上げます。

平成19,20年度 (社)日本補綴歯科学会 役員・支部長会一覧

理事

平井敏博（北医療大）： 理事長
佐々木啓一（東北大）： 副理事長・
（兼）学術委員会委員長
補佐
古谷野 潔（九州大）： 副理事長・
（兼）国際渉外委員会
委員長補佐・
（兼）支部長会座長
矢谷博文（大阪大）： 総務担当理事
皆木省吾（岡山大）： 学術委員長
志賀 博（日歯大）： 編集委員長
森戸光彦（鶴見大）： 財務委員長
石橋寛二（岩手医大）： 医療委員長・医療問題検
討部会会長
市川哲雄（徳島大）： 医療委員会・診療ガイド
ライン作成部会長
五十嵐順正（医歯大）： 医療委員会・
社会保険部会長
魚島勝美（新潟大）： 教育問題検討委員長
松村英雄（日本大）： 専門医制度委員長・
運営・研修部会長
佐藤 亨（東歯大）： 専門医制度委員会・
認定部会長
川良美佐雄（日大松戸）： 広報・社会連携委員長・
広報・社会連携部会長
鱒見進一（九歯大）： 広報・社会連携委員会・
ホームページ・
ニュースレター部会長
佐藤博信（福歯大）： 国際渉外委員長
大川周治（明海大）： 規程検討委員長
谷口 尚（医歯大）： 用語検討委員長
佐藤裕二（昭和大）： 研究企画推進委員長
服部正巳（愛院大）： 特命事項担当委員長

監事

大山喬史
武田靖夫

支部長会

座長
東北・北海道支部長
関越支部長
東関東支部長
東京支部長
西関東支部長
東海支部長
関西支部長
中国・四国支部長
九州支部長
理事長
副理事長
総務担当理事
学術委員長
財務委員長
医療委員長
専門医制度委員長
広報・社会連携委員長
幹事
古谷野 潔（副理事長）
大畑 昇（北海道大）
小林 博（新潟大）
櫻井 薫（東歯大）
古屋良一（昭和大）
阿部 實（鶴見大）
倉知正和（朝日大）
前田芳信（大阪大）
皆木省吾（岡山大）
鱒見進一（九歯大）
平井敏博
佐々木啓一
矢谷博文
皆木省吾
森戸光彦
石橋寛二
松村英雄
川良美佐雄
荻野洋一郎（九州大）

美しさと強さの融合 **GC**
MFRナノハイブリッドテクノロジーの導入で
グラディアがレベルアップ 健保適用外
GRADIA FORTE
Total Esthetic Harmony **NEW!**
超強度MFRナノハイブリッドタイプ
ジーシー グラディア フォルテ
医療用具承認番号 21700BZZ00065000 号
発売元 株式会社 ジーシー / 製造元 株式会社 ジーシーデンタルプロダクツ

平成 19, 20 年度委員会活動方針

学術委員会

委員長：皆木省吾（岡山大）
副委員長：田中卓男（鹿児島大）
委員：加藤隆史（松歯大）
塩田 真（医歯大）
武田孝之（東京支部）
田上直美（長崎大）
築山能大（九州大）
萩原芳幸（日本大）
馬場一美（医歯大）
村田比呂司（長崎大）
委員長補佐：佐々木啓一（東北大）
幹事：原 哲也（岡山大）

今期の学術委員会の活動としては、①学術活動の活性化、特にクリニカルリサーチ、トランスレーショナルリサーチの強化、②実りある学術大会開催による会員の学術活動推進、③社会への情報発信を基本の方針として活動する予定です。具体的には学術大会の企画を検討するなかで海外講師による招待講演をはじめ、研究推進企画としてのシンポジウム、会員教育企画としてのセミナー・ワークショップ、他学会とのジョイントシンポジウム、補綴歯科学における学術戦略の立案、他の委員会と協力した学会主導研究を企画しています。また、学術大会の日程や開催形式、社会的アピールとしての市民公開講座の開催方法についての検討を予定しています。このような学術大会の充実による会員の学識・技術の向上によって補綴歯科臨床による社会貢献をすることで国民の健康福祉の増進と改善に寄与したいと思っております。皆様のご期待に添うよう尽力してまいりますので、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

編集委員会

委員長：志賀 博（日歯大）
副委員長：細川隆司（九歯大）
委員：小川 匠（鶴見大）
小野高裕（大阪大）
倉澤郁文（松歯大）
佐藤利英（日歯大新潟）

高山慈子（鶴見大）
武田友孝（東歯大）
二川浩樹（広島大）
藤澤政紀（明海大）
山口泰彦（北海道大）
横山敦郎（北海道大）
幹事：横山正起（日歯大）

編集委員会は、委員長、副委員長、委員 10 名の合計 12 名で担当させていただくことになっております。

主な活動は、和文誌と英文誌の査読、編集ですが、これまでの郵便での処理ではなく、Web 上で処理できる新たな査読システムを構築する予定でおります。本年度は、手始めにメールでの処理を開始させていただいております。

和文誌は、研究・教育・臨床成果を公表する場でありますので、依頼論文、テーマ論文などの内容の充実を図るとともに、各委員会の成果を集約し、会員の皆様に還元したいと思います。依頼論文やテーマ論文について、ご希望がございましたら、委員会で検討させていただきますので、事務局まで FAX あるいはメールにてお寄せくださるようお願い申し上げます。

英文誌 (PRP) は、世界で認められる国際的な学術誌を目指すため、平成 18 年から年 4 号を発刊しておりますが、投稿数の不足から、やや遅れでの発刊が続いております。全編集委員がすべての投稿論文について、より懇切丁寧な査読を行うことで、意見の一致がみられておりますので、会員の皆様方のご投稿を切にお願い申し上げます。

財務委員会

委員長：森戸光彦（鶴見大）
副委員長：石上友彦（日本大）
委員：石垣尚一（大阪大）
幹事：松本亀治（鶴見大）

学術大会・総会の規模拡大、海外学術交流の活性化、一般市民に向けての広報活動の充実など、財務委員会では学会のさらなる円滑な運営に向けて、適正な収支となるよう引き続き努力いたしま

す。また、予算の請求、執行に関わる事務手続きなども煩雑にならぬよう進めてまいります。会費の納入をはじめ、皆様のご理解、ご協力をお願い致します。

医療委員会

委員長：石橋寛二（岩手医大）

【医療問題検討部会】

部会長：石橋寛二（岩手医大）

副部長：山森徹雄（奥羽大）

委員：池田和博（北医療大）

安田 登（東京支部）

渡辺文彦（日歯大新潟）

幹事：伊藤創造（岩手医大）

補綴歯科臨床の健康へ果たす役割に関する科学的根拠を収集、蓄積し、これをわが国の歯科医療制度および政策へ反映させるために提言を行います。

特に今年度は具体的な事項に関わる提言を行うために、課題を整理して提示するとともにその課題を解決する根拠となるべき情報を収集する方法を検討いたします。

また、補綴歯科治療に対する学会としての見解を対外的に示すべく各部門との連携を図って意見をまとめてまいります。

特に本部会は医療委員会・診療ガイドライン作成部会・社会保険部会ならびに関連する委員会との共同作業を通じて具現化いたします。

【診療ガイドライン作成部会】

部会長：市川哲雄（徳島大）

副部長：窪木拓男（岡山大）

委員：小林 博（新潟大）

志賀 博（日歯大）

津賀一弘（広島大）

秀島雅之（医歯大）

幹事：永尾 寛（徳島大）

診療ガイドライン作成部会は医療委員会の1部会として、医療現場で必要とされる診療ガイドラインの作成を主な業務としています。また、15～18年度医療問題検討委員会の業務を引き継ぐ形で、「症型分類」についての最終報告に向けて

の作業を行います。

平成19年度は、①多施設でトライアル中の症型分類Ⅰの信頼性に関する報告、②作成する診療ガイドラインの作成方略の決定とそれに基づく作業開始を行う予定にしています。

なお、上記委員のほか、症型分類担当特命委員として、和気裕之、佐藤博信、佐藤裕二、玉置勝司、およびトライアル関係の各大学のコーディネーターの協力を得ます。

【社会保険部会】

部会長：五十嵐順正（医歯大）

副部長：藤井重壽（東京支部）

委員：祇園白信仁（日本大）

鈴木哲也（岩手医大）

谷口威夫（東海支部）

幹事：佐藤雅之（医歯大）

社会保険部会は、医療委員会の一部門として活動しております。日本の歯科医療の大部分が社会保険制度のもとで実施されており、補綴臨床についても例外ではありません。21世紀に入り歯科の材料や技術も大幅に変化、進歩しており、また患者からのニーズも多様化してきております。そのため歯科医療の根本を考え直す必要があると考えられます。委員会としては、従来どおり、①日本歯科医師会疑義解釈委員会からの諮問に科学的な根拠を添えて答申する、②次期診療報酬改定（平成20年度）に向かって（状況によって社員にアンケートを依頼し）問題点を抽出し要望項目を絞りこむとともに、③その他適宜医療問題を扱う試みに参加し歯科全体としての対応に協力するなど活動を予定しています。どうぞご意見をお寄せください。

専門医制度委員会

委員長：松村英雄（日本大）

【運営・研修部会】

部会長：松村英雄（日本大）

副部長：小出 馨（日歯大新潟）

委員：高橋 裕（福歯大）

田上直美（長崎大）

松香芳三（岡山大）

理事長：平井敏博

【ホームページ・ニュースレター部会】

部会長：鱒見進一（九歯大）
副部長：塩山 司（岩手医大）
委員：齋藤正恭（北海道大）
坂井貴子（九州大）
田中昌博（大歯大）
幹事：有田正博（九歯大）

前委員長の石橋寛二先生をはじめ広報委員会のメンバー全員が積極的に活動され、ホームページ、ニュースレターともに充実したものになりました。

今期の活動内容としましては、前年度の活動を継承し、ホームページによるより迅速に、より正確な情報提供を強化するとともに、英文ホームページの充実に向けて努力する所存です。また、ニュースレターに関しましても、部員一丸となってその充実に努める所存です。

国際渉外委員会

委員長：佐藤博信（福歯大）
副委員長：三浦宏之（医歯大）
委員：市来利香（九州大）
大久保力廣（鶴見大）
木本克彦（神歯大）
委員長補佐：古谷野 潔（九州大）
幹事：松永興昌（福歯大）

1. アジア補綴歯科学会（AAP；Asian Academy of Prosthodontics）との交流
第116回日本補綴歯科学会学術大会（大会長：井上 宏大阪歯科大学教授）と併催で開催される第5回AAP（2007/5/18

（金）～20（日），神戸ポートピアホテル）のサポート。

2. ICP (International College of Prosthodontists) との交流
第12回学術大会（2007/9/5（水）～8（土）福岡 JAL リゾートシーホークホテル福岡で開催）のサポート。JPS 会員で ICP 非会員の ICP 参加希望者の登録のとりまとめ。
3. GNYAP (Greater New York Academy of Prosthodontics) との交流
2nd JPS-GNYAP Joint Meeting (2007/10/20 (土), 21 (日) 東京 TFT ホールで開催) のサポート。
4. CPS (Chinese Prosthodontic Society) との交流
CPS との交流協定の締結に伴う今後の具体的活動方針の決定と交渉。
5. IPS (Indian Prosthodontic Society) との交流
IPS との交流協定の締結に伴う今後の具体的活動方針の決定と交渉。
6. 大韓補綴歯科学会（KAP；Korean Academy of Prosthodontics）との交流
第117回日本補綴歯科学会学術大会（大会長：田中貴信愛知学院大学教授）と併催で開催される第3回KAP（2008/6/6（金）～8（日），名古屋国際会議場）の具体的活動方針の決定と交渉。
7. Journal of Oral Rehabilitation (JOR) との交流
JOR の Sponsoring Organization としての連絡および協力。
8. 広報・社会連携委員会との連携
English Home Page の更新。

教育問題検討委員会

委員長：魚島勝美（新潟大）
副委員長：新谷明喜（日歯大）
委員：上野俊明（医歯大）
江藤隆徳（大歯大）
河野文昭（徳島大）
幹事：藤井規孝（新潟大）

NC VERACIA

ナノテクノロジーと
機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

NC Veracia

医療用具承認番号 21100BZZ00751
NC ベラシア アンテリア
硬質レジン歯（前歯用）1組…¥780 色調：A1、A2、A3、A3.5、B2
形態：上顎5形態、下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272
NC ベラシア ポステリア
硬質レジン歯（臼歯用）1組…¥1,040 色調：A2、A3、A3.5、B2
形態：上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格（消費税抜き）です。

世界の新技術に挑戦する
株式会社 松風
本社●〒605-0983京都市東山区福福上高松町11-TEL(075)561-1112(代)

本委員会は平成17年度の赤川前理事長の執行

部において、それまでの実技教育検討委員会と研修教育検討委員会とが統合されてスタートしています。歯科の臨床における補綴学的な知識や技能の習得は非常に重要であるにもかかわらず、その教育はほとんどが個々の歯科医師に任されているのが現状です。学会としては、卒前卒後の補綴学教育のあり方に関する基準を明確に示し、専門医制度との齟齬がないように、また一般的な補綴医療水準を少しでも高められるようにしていかなければなりません。

平成 17 年 2 月に実技教育検討委員会（皆木委員長）より実技に関する評価等を詳細に検討した報告書「補綴実技教育の評価を考える（本学会誌 49 巻 1 号）」が提出されました。また、前委員会（櫻井委員長）では、平成 18 年 12 月に「歯科補綴学教育基準改訂 2006」として、補綴学の知識に関する基準が提示されました。

これらを踏まえ、われわれは平井理事長の下で次の 3 点を目標として今期の活動を行いたいと思います。

1. 補綴学技術教育の現状把握

アンケートを実施させていただきます。

2. 歯科補綴学技術教育基準の策定

卒前・研修医・レジデント・補綴専門医などの到達段階ごとに、具体的な基準を策定できればと思っています。

3. コアカリキュラムの見直し

このことに関する学会の立場は不明瞭ですが、学会の教育基準策定の際には視野に入れておく必要があると思います。

規程検討委員会

委員長：大川周治（明海大）

副委員長：塩澤育己（医歯大）

委員：尾澤昌悟（愛院大）

倉知正和（朝日大）

新谷明幸（昭和大）

幹事：山本裕信（明海大）

今年度の規程検討委員会では、下記に示しますように、まず委員会構成の変更に伴う規程の改廃、修正および制定手続きを早急に行ってまいります。

1. 廃止—法人運営委員会規程

2. 改正—一部会、部会長に関する事項の追加、

修正

1) 医療委員会規程

（医療問題検討部会、診療ガイドライン作成部会、社会保険部会）

2) 広報・社会連携委員会規程

（広報・社会連携部会、ホームページ・ニュースレター部会）

3) 専門医制度委員会規程

（運営・研修部会、認定部会）

3. 修正

1) 各規程の廃止、改正に伴う、規程集全般における文言の修正

2) 「庶務担当理事」から「総務担当理事」への変更に伴う、規程集全般における文言の修正

4. 制定（新設）—研究企画推進委員会規程

その他、各委員会から規程集に関する改正の発議があり次第、順次対応していく予定です。会員の方々のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

用語検討委員会

委員長：谷口 尚（医歯大）

副委員長：尾関雅彦（昭和大）

委員：久保吉廣（徳島大）

永井栄一（日本大）

依田正信（東北大）

幹事：隅田由香（医歯大）

前期の委員会活動を引き継ぐとともに、関連学術分野（医歯学系：形成外科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学、顎顔面補綴学など、社会学系：音声言語学、色彩学など）との用語整合性を積極的に図ります。具体的には以下の項目について、検討・実施を行います。

1. 歯科補綴学専門用語集の改訂

2. ネットフリー百科事典「ウィキペディア」への書き込み

3. 日本歯科医学会学術用語集改訂作業の推進

4. 歯科医師国家試験、共用試験、歯科保険などでの整備・採択推進

5. 関連学術分野との連繫強化・整合性向上

6. その他

研究企画推進委員会

委員長：佐藤裕二（昭和大）
副委員長：服部佳功（東北大）
委員：玉置勝司（神歯大）
 中村隆志（大阪大）
 山下秀一郎（松歯大）
幹事：北川 昇（昭和大）

平井理事長のもと、新たに設立された委員会で、その目的は学会を挙げての研究を企画し、学会員に広く研究協力を依頼し、その結果をまとめて宿題報告として学術大会等で発表することにあります。この結果は、指針やガイドラインを作るためのデータとなり、社会に還元することとなります。医療委員会、学術委員会、編集委員会との連携が必要となります。

研究テーマの条件として、

- ・結果が社会にアピールできる（補綴治療の有用性など）。
 - ・短期（1年程度）で結果が出るものを優先的に
行う。
 - ・中期（2～4年程度）で結果が出るものについても検討を行う。
 - ・長期（5年以上）必要なテーマについてもスタート可能な準備を行う。
- などを考えています。

会員の皆様よりテーマを募集したいと思いますので、ぜひご連絡をお願いいたします。

特命事項担当委員会

委員長：服部正巳（愛院大）
幹事：竹内一夫（愛院大）

インド補綴歯科学会と学術交流協定を締結



中央：Dr. Paramjit Singh（インド補綴歯科学会会長）、右から2人目：Dr. Anil Kohli（President, Dental Council of India）、右端：赤川安正前理事長、右から5人目：Dr. V. Rangarajan（Secretary, Indian Prosthodontic Society）、右から3人目：矢谷博文前庶務担当理事

（社）日本補綴歯科学会は、これまで2002年に韓国補綴歯科学会と2006年には中国補綴歯科学会と学術交流協定を締結してきました。両国とはその後活発な学術交流を続けていることは会員の皆様もよくご存じのことと存じます。このたびは、さらにインド補綴歯科学会との学術交流協定が、インド共和国 Chennai市の Radisson Hotelにおいて2007年3月28日に締結されました。この学術交流協定は、近い将来アジアをリードする国の一つとなることが確実なインドの補綴歯科学会と学術交流を進め、両国の歯科補綴学の進歩と補綴臨床の発展に資するとともに、両国の歯科補綴学会の会員相互の友情を深めていくことを目的としています。

この協定締結の調印式には、日本側から赤川理事長と庶務担当理事の私が出席して執り行われました。インド側からは、現会長の Dr. Paramjit Singh（President, Indian Prosthodontic Society）、Dr. V. Rangarajan（Secretary, Indian Prosthodontic Society）、Dr. Anil Kohli（President, Dental Council of India）、Dr. Ashok Dhoble（Secretary General, Indian Dental Association）が出席し、厳かに式典が進行しました。まず Singh 会長が歓迎の辞を述べられ、続いて赤川理事長と矢谷が挨拶し、さらに Rangarajan 庶務担当理事が挨拶しました。挨拶の後、Kohli 先生

ハイブリッド型硬質レジン
パールエステ 誕生

口腔内でのツヤの
持続を実現!!
真球状のフィラーを高充填

（保険適用外）
歯冠用硬質レジン（管理医療機器）承認番号21600BZZ00301000

カタログ請求はインフォメーションサービス

☎0120-54-1182 受付時間 9:00～12:00 / 13:00～17:30
（土・日祭日を除く）

※パールエステは充填用コンポジットレジンではありません

株式会社 **トクヤマデンタル** 本社：〒110-0016 東京都台東区台東1-38-9
http://www.tokuyama-dental.co.jp TEL 03-3835-7201

同席のもとに日本から持参した交流協定書に正式にサインをいたしました。サインの後、Kohli 先生が挨拶され、最後に Rangarajan 庶務担当理事から参会への感謝の言葉が述べられ、両国の国歌が吹奏されて、無事調印式が終了しました。調印式の後にはインドの民族舞踊が披露されるなか、立食パーティが催され、さらに友好を深めることができました。

調印式にはインド補綴歯科学会から重要な方々が多数全インドから参集されており、さらにプレス、TV 等のマスコミも 5, 6 名出席して取材が行われ、この調印式に対するインド側の期待の高さをうかがい知ることができました。調印式の模様は、翌日にはもうインドの有力紙 THE HINDU に写真入りの新聞記事で紹介されました。

インドの補綴歯科学会の方々は日本の補綴歯科

学会に対して、単に儀礼的な交流ではなく、もっと実質的な学術交流を強く望んでおられることが、どの方と話をしても等しく感じられました。今後、この交流協定調印を契機として、両国の学術大会への参加だけにとどまらず、共同研究や留学などの人的交流を積極的に進めなければならないと感じて帰国いたしました。第 116 回日本補綴歯科学会学術大会と併催されます第 5 回アジア補綴歯科学会には Rangarajan 庶務担当理事をはじめ 10 名程度の方々がインドから参加され、再会を楽しみました。

最後に、調印に至る交渉と準備を献身的にいただいた古谷野国際渉外担当理事、ご支援いただいた鶴見大学 細井教授、ならびに関係各位に感謝いたします。

(総務理事 矢谷博文)

IADR Prosthodontics Research Group Pre-Prosthetic Regenerative Science Award for Young Investigators

Pre-prosthetic Regenerative Science Award
を受賞して

月村直樹
(UCLA ワイントロープセンター
骨インプラント・サイエンスチーム (LBIS)
・日本大学歯学部補綴学教室第 2 講座)



先に New Orleans で行われました第 85 回 IADR 総会において、いまだ不明な点が多い骨芽細胞と免疫細胞との関連について研究した“Co-culture effect of peripheral blood mononuclear cells on osteoblast”の演題にて Award を受賞いたしました。本賞は、IADR の補綴研究グループと日本補綴歯科学会の両者の後援のもとと本年より新しく制定されたもので、若い研究者の奨励を目的にし、補綴学関連の再生医療の多岐にわたる学

際的分野にトピックスをあてた、オリジナリティーあふれる研究に対して贈られるものです。今回、制定後初めて受賞できましたことは身に余る光栄であり、直接指導を仰ぎました UCLA の小川隆広准教授そして IADR の補綴研究グループを始め日本補綴歯科学会の皆様に心から感謝したいと思っております。今後さらに、補綴学の発展のため、お手伝いできますよう研鑽を積んで参りたいと思っております。

Arthur R. Frechette Research Award Competition 第 1 位を受賞して

會田英紀
(UCLA ワイントロープセンター
骨インプラント・サイエンスチーム (LBIS)
・北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座)



第 85 回 IADR 総会において受賞させていただいた名誉ある上記の賞は 1991 年に補綴関連の演題を対象に制定されたものです。受賞演題 “Accelerated osseointegration around light-induced super-amphiphilic titanium surface” は、私が 2003 年 8 月から約 2 年間留学していた UCLA の小川隆広准教授がディレクターである LBIS にて行った研究の一部で、従来のものをはるかに凌駕する新規インプラントサーフェイス

のオッセオインテグレーション獲得能について報告したものです。実験を行っていた当時は、連日のように従来の常識を覆すデータが出て、かなり興奮したことを覚えております。また、われわれが着目したこの光誘起超両親媒性チタン表面は日本発のテクノロジーであるというのもとても感慨深いものがあります。本稿が何らかのきっかけになって、次の IADR 総会でも当学会会員から第 1 位受賞者がでることを願ってやみません。

第 12 回国際補綴歯科学会 (12th Meeting of the International College of Prosthodontists) のご案内

日時：平成 19 年 9 月 5 日 (水) ~8 日 (土)
場所：JAL リゾート・シーホーク・ホテル
〒 810-8650 福岡市中央区地行浜 2-2-3

International College of Prosthodontists (ICP) は、世界各国の補綴医が集う国際的な組織設立の必要性から、American College of Prosthodontists の Jack Preston 氏の尽力により小委員会が設置され、1982 年に British Dental Association の Harold Preiskel 氏のもと国際シンポジウムが開催されました。この会議において、スウェーデン (Bo Bergman), オーストラリア (Lloyd Crawford), U. K. (Rowland Fereday, William Murphy, Harold Preiskel), 日本 (松本 誠), アメリカ (Jack Preston), スイス (Peter

Scharer), カナダ (George Zarb) の 7 カ国で運営委員会が設置されました。第 1 回大会は Seattle (1985 年) で開催され、以後 2 年に 1 度開催されております。これまでに Interlaken, Toronto, 広島, Burgenstock, San Diego, Malta, Stockholm, Sydney, Halifax, Crete で開催され、今回は古谷野 潔先生ならびに Regina Mericske-Stern 先生を会長として福岡で開催されることとなりました。

プログラムの詳細につきましては、ICP のホームページ (<http://www.icp-org.com/>) にアクセスして下さい。世界中の補綴専門医達が結集する本大会ですのでぜひとも多くの会員の方々の参加をお願い致します。

(社) 日本補綴歯科学会・グレーターニューヨーク補綴歯科学会ジョイントミーティング (2nd Joint Meeting of the Japan Prosthodontic Society and the Greater New York Academy of Prosthodontics) のご案内

Advanced Strategy of Prosthodontics
—West meets Far East—
補綴歯科の未来戦略

日時：平成 19 年 10 月 20 日 (土), 21 日 (日)
場所：東京 TFT ホール (東京ビッグサイト)

〒 135-0063 東京都江東区有明 3-21-1

グレーターニューヨーク補綴歯科学会は、アメリカの補綴歯科の分野で最も長い歴史をもつ学会のひとつで、Journal of Prosthetic Dentistry の Sponsoring Organization であり、アメリカの補

綴臨床と歯科補綴学をリードしている学会です。

私たち日本補綴歯科学会は、アメリカと日本で
行われている「いま最も新しい」補綴臨床と歯科
補綴学の進歩を「臨床の切り口」で日米で討議し
合おうと、このジョイントミーティングを企画し
ました。これはわが国で初めての試みであります。

アメリカ東海岸はアメリカの伝統と先進性を併
せもっているところです。その地域から選りすぐ
りのアメリカ側の 8 名の講演者と、彼らとジョイ
ントするにふさわしい各分野の日本側のエキス
パート 8 名を両学会員から選び、これら 16 名の
招待講演と両学会員からのポスター発表とによ
り、討議を行います。臨床医の先生はアメリカと
日本で「いま旬である」先端的な補綴臨床を、ま

た大学の先生方はその臨床とともにそれらを進め
る学問的なバックグラウンドを、それぞれしっか
りと見て、聞いて、討議して下さい。

ジョイントミーティングのホームページ
(<http://www.kokuhoken.or.jp/JPS/GNYAP/>) に
アクセスして、ポスター発表と学会参加を行って
下さい。

研修単位は下記のとおり設定されました。

本大会出席につき 4 単位、本大会に関わる
PRP 論文「筆頭著者 8 単位、共著者 4 単位」、講
演発表（ポスターを含む）「演者 6 単位、共同
演者 3 単位」。

第116回学術大会・ 第5回アジア補綴歯科学会レポート

第 116 回学術大会の総括

大会長 井上 宏

この度の第 116 回学術大会は第 5 回アジア補
綴歯科学会との共催として、「国際補綴歯科学会神
戸 2007」の名称で開催致しました。国際学会と
しての名称をかかげて補綴歯科学会学術大会を
行ったのは今回が初めてのことでしたが、アジア
の補綴家の先生方が多数参加されたことによる交
流と日本の補綴学会の学術レベルを知ってもら
うよい機会となったと考えます。特に、赤川前理事
長が進めてきたインド補綴歯科学会との交流が、
今回の学会から具体的に始まったことも大きな意
義と成果があったと考えております。また、神戸
での開催も補綴学会始まって以来初めてのことで
したが、魅力的な街であり、交通の便もよく、会
場設備も整っていたのでよかったですと思います。花
鳥園での懇親会も今までとは違ったなごやかな雰
囲気でありました。日本口腔インプラント学会と
のジョイントシンポジウムも 1,500 人入る広い
会場がほぼいっぱい、会員のインプラントにつ
いての関心の高さを物語っていましたが、同時に
インプラント歯科学の研究・臨床を補綴歯科学会
としてどのように進めてゆくかが課題となってき
たと考えます。

今回、新しく企画された企業による 6 つのラン

チョンセミナーも、準備された 1,200 食の昼食も
あっという間になくなり、企業と会員間の学術交
流が深められました。これを機会に企業と学会の
共同で補綴臨床器材に関連する新しい研究の始
まりが期待されます。

学術プログラムにつきましては、これまでにな
く沢山の企画がなされ会員の先生方は選択に苦慮
されたと思います。up to date な内容と適切な演
者の選定に努力をいただきました学術委員長なら
びに委員の先生方に感謝申し上げます。

研究発表は一般口頭発表をやめ、課題口演のみ
として 44 演題を 4 会場に分けて同時発表と致
しましたが、その内容はいずれも新規性に富む完
成度の高い素晴らしい研究でありました。特に、コ
ンペティション優秀賞に選ばれた 8 つの研究は、
いずれも補綴歯科学が探求する 21 世紀型の内容
で、脳科学研究、遺伝子研究、インプラント臨床
研究、生体材料研究などバランスよく選考されて
いました。本学術大会の目的の 1 つに最先端サイ
エンスを取り入れた歯科補綴学の研究を社会に提
供することにありましたので十分その目的が達成
されたと考えます。

一方、基礎研究に対応する臨床の研究が少な
かったことから、課題口演に症例報告や機材器具
の開発などの補綴臨床セッションを独立して取り
入れる必要があると感じました。ぜひ、次回大会

に企画をお願いする次第です。

井村先生の特別講演そして平井理事長の理事長講演は、いずれも本学術大会の目的として掲げた21世紀型の歯科補綴学を目指した未来価値を見つけ出すことに呼応した内容でありました。理事長講演では、歯科補綴学の目標を「リハビリテーション」と「QOLの維持・向上」に置き、「予防」を加えた健康科学にあるとした明確な指針を示され、同時に補綴専門医の必要性を強調され2年間の活動内容が会員に提示されたことは大変意義あるものと考えます。

また、市民公開シンポジウムについては、患者さんサイドからの目線からみた補綴歯科治療を知ることができ、市民の皆様へ口から食べることの生命的な意義と補綴歯科学の役割を伝えることができたと考えます。

大会長として今回の学術大会で掲げた5つの目的は、すべて達成されたものと総括しています。

特別講演 長寿社会と健康科学の課題

座長：井上 宏大会長（大歯大）

講師：井村裕夫（財団法人先端医療振興財団理事長）



井上大会長



井村先生

21世紀の日本補綴歯科学会を目指す目標が、

高齢社会における健康科学に立脚した長寿社会にいかに関与するかにあることは、5月20日の平井理事長の理事長講演で明らかにされ、共有できたと思います。そのような状況のなかで、今回の特別講演が井村裕夫先生によって「長寿社会と健康科学の課題」というタイトルでお話いただけたことは、真に一連の流れにぴったりと納まった適切なものであったと思います。

講演ではわが国の高齢者の心臓病や脳血管障害の要因となる生活習慣病としてのメタボリックシンドロームにフォーカスを当て、その一次予防の重要性を説明されました。一次予防の環境因子としての食事を取り上げ、肥満を招く食習慣としてのファーストフード、テレビを見ながらの食事、早食いなどとともに、よく噛むことによって咀嚼後の血糖値が低下推移していく実験データの提示と説明がありました。これは、メタボリックシンドロームの中心的な病態である糖尿病の予防に、嚥下に至るまで時間をかけ、回数多く徹底した咀嚼を行うことの重要性が示唆された研究で大変興味深く感じました。そして、補綴歯科学の研究で、義歯やインプラント歯のよく噛める咀嚼への効果を多面的にエビデンスとして構築していかなければならないと強く再認識しました。

また、生活習慣病の重症化した非可逆的な変化に対応する再生医療や人工臓器について言及され、そのなかで腸骨から採取した間葉系細胞の培養と多血小板血漿の注入による歯周組織再生治療に期待するとのお話がありました。歯科補綴治療は本質的には人工臓器学であり、再生医療学であるわけですから、21世紀の中期には人工臓器としてのインプラント歯根をより発展させながら、再生歯科医療を構築する使命を担うものでなければならぬことに気付きました。そして、少し遅いかもしれませんが、補綴治療のブレイクスルーとして、今から歯を含めた口腔器官再生医療の研究に邁進しなければなりません。

最後に井村先生は、わが国の先端医療の遅れを指摘され、実用化の遅れている分野のトップに再生医療を挙げ、治験システムすらない現状に触れられ、行政的な面での改革の必要性に言及されました。日本の高齢者に関する健康科学の現状を短い時間内に俯瞰していただき、会員にとってきわめて有意義な特別講演でありました。

（座長 井上 宏）

Happy Smiles & Heartful Communication

デンタルエステをはじめませんか MORITA

- 審美性を追求し、自然感のある透明性と優れた色調再現性を実現しました。
- 操作性と研磨性を向上しました。
- 専用のガラスファイバー「EGファイバー」を用いることで、メタルフリーブリッジの製作を可能にし、臨床用途を拡大しました。

ハイスリッド セラミックス
エステニア C&B

■標準価格 スタンダードセット 128,000円
■医療機器承認番号21500BZZ00534

製造販売元 クラレメディカル株式会社
販売元 株式会社モリタ 東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL:03-3834-6161
大阪本社 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 TEL:06-6380-2525

●掲載商品の標準価格は、2005年4月21日現在のものです。
標準価格には消費税等は含まれておりません。

www.dental-plaza.com

理事長講演**健康科学を基盤とした歯科補綴学の構築と推進**

—これからの2年間へ向けて—

座長：佐々木啓一副理事長（東北大）

講師：平井敏博理事長（北医療大）



平井理事長

本年4月に理事長に就任された平井敏博教授に、平成19～20年度の本学会の活動方針についてご講演をいただきました。講演において、平井理事長はまず、会員が歯科補綴学の位置づけならびに本学会の目的・使命を再確認し、時代に対応した学会活動を推進すること、またその達成を図るべく会員が目的・課題を共有し一致団結することの必要性を述べられました。これらを基盤とする今期の活動指針としては、赤川前理事長の優れたリーダーシップのもと前執行部により開始された教育、研究、臨床、社会貢献に関する方針、施策を踏襲し、さらなる推進を図ることを挙げ、そのための具体的方策を述べられました。これらについては、平井理事長からのご挨拶に記されることと思います。

平井理事長は、本邦のリーダーのお一人として長らく歯科補綴学の教育研究、学会運営に携わられてきた方であり、講演で示された施政方針は、歯科補綴学ならびに本学会を取り巻く幾多の要因についての確固とした歴史認識、現状認識に基づくものと感じました。今学術大会では多数の催しが開催され、理事長講演を2日目の昼どきに設定せざるを得ない状況となってしまう、聴衆がやや少なかったことが残念でした。平井理事長からご提示いただいた学会の課題ならびに今期の活動方針を会員が皆で共有し、平井理事長のリーダーシップのもと、会員ならびに国民にとって有意義で効果的な学会活動が推進されることを切に期待いたします。

(座長 佐々木啓一)

海外招待講演 I**Restoration of Endodontically Treated Teeth**

座長：古谷野 潔（九州大）

講師：Stephen F. Rosenstiel（Ohio 州立大）



Prof. Rosenstiel

歯内治療が施された歯の修復治療は、予後が良くない場合がしばしばあり、その補綴治療については多くの議論がなされています。今回、“Contemporary Fixed Prosthodontics（和訳本題名：クラウンブリッジの臨床）”の著者であるオハイオ州立大学歯学部 Rosenstiel 教授をお招きして、この問題に関してご講演いただく機会を得ることができました。

講演では、歯内治療が施された歯の修復に際して、審美性を獲得し、失敗を最小限に抑えるための治療法の選択と治療計画立案の原則について、最新のエビデンスに基づいてまとめていただきました。具体的には、治療計画を左右する種々の因子、すなわち前歯部か臼歯部かによる方針の違い、支台歯形成（歯冠部および根幹部）の基本的デザイン、最新のテクニックと材料、審美的なオプションなどについて整理、解説されました。

特に歯冠部歯質のほとんどを失った歯の修復に用いられる鑄造ポストアンドコア、既製ポスト+コンポジットレジン、熱可塑性ポスト+光重合レジンの3つの方法について、形成デザイン、ポストと歯質の接着およびポスト材とコア材の接着強度の問題などについて、実験結果も踏まえて、比較検討されました。また、審美性を重視する症例で用いられる歯冠補綴材料である高強度セラミックとファイバー強化型コンポジットについても比較検討していただきました。

以上の講演を通じて、現在のアメリカの歯科大学の補綴学で教えられている無髄歯の補綴治療の原則や治療法の選択について理解することができ、アメリカの補綴学の現状を知る良い機会となりました。

(座長 古谷野 潔)

海外招待講演Ⅱ

Efficacy of Conventional and Implant-supported Mandibular Resection Prostheses : Study Overview, Treatment Outcomes and Patient Satisfaction

座長：佐藤博信（福歯大）

講師：Neal Garrett（UCLA）



Prof. Garrett

補綴学会で顎補綴に関連する講演は私の記憶ではほとんどなかったように思いますし、海外の演者を招聘したのも初めてではないかと思えます。顎補綴も補綴の専門分野の一つでありますし、最近ではこの分野にもインプラント治療が積極的に導入されるようになってきており、本学会員にとって変革を続ける同分野の最新の情報をお聞きできるよい機会であったように思われます。

講演のはじめにご紹介申し上げましたように、Garrett 教授が所属する米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校の Weintraub Center は顎補綴の基礎から臨床に至るまでの一連の研究を行っている世界に類をみない貴重な臨床研究施設で、そのなかで Garrett 教授はきちっとしたプロトコルのもと臨床、研究に取り組まれていることが、この講演でよくわかりました。そして、講演では従来型の補綴治療、インプラント治療を含めた包括的治療の重要性を強調され、そのなかでのインプラント治療の位置づけをデータに基づいて説明し

ていただきました。これらの情報は今後本学会員にとって有益なものになるものと思われました。

（座長 佐藤博信）

シンポジウムⅠ

欠損歯列における「短縮歯列」処置に関するマルチセン

ター・リサーチ宿題報告

座長：五十嵐順正（医歯大）

講師：山下秀一郎（松歯大）

「臼歯部咬合支持の喪失に伴う咬みしめ時の下顎頭変位」

池邊一典（大阪大）

「SDA 症例の咀嚼能率と義歯」

馬場一美（医歯大）

「SDA 患者における臼歯部咬合支持の喪失と口腔関連 QoL との関係」

第 109,110 回大会のシンポジウムで提起、検討された「短縮歯列」について、今回は宿題報告として現状における最終的な結論を求めることを目的といたしました。

種々な要因により歯が欠損した場合、ただちにその欠損を補綴することは従来から歯科補綴学の鉄則でありました。これにより、欠損発生後の顎口腔系に生じる継発症を未然に防止し、患者の QoL の確保・向上に資するよう適切な補綴装置を適用するための教育・研究が行われ、臨床において患者に適用されてまいりました。

近年、西欧諸国において臼歯部咬合支持を構成する大臼歯・小臼歯のうち、大臼歯群は欠損した状態で放置したとしても患者の顎口腔系に著しい機能・外観の低下は認められないとする論調が提唱され「短縮歯列」の適応が増加しつつあります。このような西欧・米国における考え方に対し、欠損歯列へ積極的に治療介入すべきか、または「短縮歯列」として処理すべき適応症が存在するかを多角的に検討することは意義深いものがあり、諸外国のデータにのみ追従するのではなく、わが国の患者に対し日本補綴歯科学会が見解を示すことが求められておりました。

従来、この問題については諸外国で疫学的研究のみが行われてきたにすぎなかったため、学会のメンバーである複数の研究機関で同一の研究指針のもとに基礎的な臨床研究を企画し、H16～18 年度科学研究費基盤研究 (A)(1) として、東京医科歯科大学、大阪大学、新潟大学、広島大学、日

BoneNavi[®] System

CT(DICOM)データから作製する顎骨模型とサージカルガイド

医療用 CT スライス画像から得た平面画像を 3 次元化し、10DR 社の歯科用インプラント手術シミュレーションソフトによる人工歯根埋入位置データをもとに、骨上支持、歯牙支持、粘膜支持型のサージカルガイドおよび顎骨模型を設計します。これを CAD/CAM によって作製し、インプラント手術を支援するものです。

安心・安全なインプラント治療のために、ぜひとも、ご利用下さい。

製造元 **BioNIC Bionic 株式会社**

※BoneNavi システムは、10DR ユーザー様限定のモニターサービスとなっております。

お問合せ **和** 歯も心も美しく **和** 歯も心も美しく **和** 歯も心も美しく

販売元 **和** 歯も心も美しく **和** 歯も心も美しく **和** 歯も心も美しく

大阪市淀川区東三国1丁目12番15号 辻本ビル6F
TEL (06)4807-6700 FAX (06)4807-6788

本大学、松本歯科大学の6歯学部で行うマルチセンターリサーチとして五十嵐が申請し、各歯学部で客観的なデータ収集を行う一方、患者のQoLに関しては患者主体の主観的な評価を数値化し、従来の補綴治療では比較的等閑視されてきた補綴処置の臨床評価を重視いたしました。

これにより西欧とは食文化の異なる日本人患者のQoLの達成目標を推察する一助となりました。研究期間内に欠損補綴介入と「短縮歯列」処理の是非に対するガイドラインの基盤となるデータの一端が得られました。

今回のシンポジウムでは上記の内容について、下顎位の変化(山下：松歯大)、咀嚼能率評価(池邊：大阪大)、患者のQoL調査(馬場：医歯大)について報告があり、結論として『現状、わが国の患者に対し、すべての適応可能遊離端欠損症例を「短縮歯列」として処置することは原則的に行うべきではない』ことが日本補綴歯科学会のコンセンサスとして確認されました。

- 日本人における短縮歯列
- マルチセンターリサーチ
- 客観的評価、主観的評価

(座長 五十嵐順正)

シンポジウムⅡ インプラントの咬合：分かっていること、いないこと

座長：武田孝之（東京支部）、
前田芳信（大阪大）

講師：中村公雄（関西支部）

「インプラント治療における咬合の臨床的対応」

永田省藏（九州支部）

「臨床におこっている問題点」

松下恭之（九州大）

「インプラント咬合にエビデンスはあるか？」

細川隆司（九歯大）

「インプラント臨床における咬合の重要性ーリスクファクターとしての臨床エビデンスー」

補綴歯科学会においては過去に「インプラントの咬合」をテーマにシンポジウムが行われた経緯があります。それからあまり時間は経過していないものの、その間の歯科補綴におけるインプラントの利用頻度の拡大には目を見張るものがありま

す。またオッセオインテグレーションタイプのインプラントがわが国に導入されてから20年を超えようとしている現在、多くの長期症例も報告されるようになってきております。

しかしながらその間においても、インプラントの咬合にまつわるさまざまな疑問が投げかけられ続けてきていますが、明確な答えは出ていません。そこでは以下に示すような疑問点が生じてきます。

- ・天然歯および義歯の咬合と異なるものは何か
- ・重篤な歯周疾患を伴う歯列での補綴の場合と何が異なるか
- ・咬頭嵌合位で天然歯と同様の咬合接触を与えるとは何が起きるのか
- ・咬頭嵌合位で接触させないと何が起きるのか
- ・犬歯誘導とすることが望ましいのか
- ・欠損の位置、数とインプラントの配置によって咬合付与に差をつけるのか
- ・力による問題はいつ、どこに、どのように起きるのか
- ・パラファンクションのある症例に対する対応策はこのような背景から、今回あらためて「インプラントの咬合」について臨床的データ、文献的データから再考することになりましたが、日本補綴歯科学会と日本口腔インプラント学会が共催する形式で開催することができましたことには大きな意義があると考えられます。

シンポジウムは2部構成で行われ、前半では中村、永田、武田の各先生からの「長期症例からの問題点の提起」と松下、細川の両先生から「文献的なエビデンスの考察」を行っていただき、後半では4名のシンポジストから「臨床的な対応策」として具体的にどのように咬合に関する問題に対処しているかを解説していただきました。

その結果から今回のシンポジウムを通じて以下のような提言をまとめてみました。

- ・インプラント補綴の前に歯列の健全化をはかるべきである
- ・従来の補綴の基本（特に適合、清掃性）を確立すべきである
- ・インプラントと天然歯の咬合は差をつけて考える必要はない。むしろ全顎的なバランスを考えた咬合接触を与えるべきである
- ・過大な咬合力が生じる可能性を常に考えて診断、設計する必要がある
- ・インプラントに対合する天然歯に注意すべきで

ある

- ・最後方の咬合部位に大きな負荷がかかることに注意すべきである
- ・プロビジョナルレストレーションを用いて咬合の適切さ、パラファンクションを確認すべきである
- ・パラファンクションに対応するには、ナイトガードの使用と咬合面材料の選択に配慮すべきである
- ・メンテナンス時にも咬合のチェックは必須である
- ・経年的変化がどこに出てくるかをよく観察する必要がある（磨耗，疲労）
- ・今後さらに咬合に関するエビデンスを蓄積しなければならない

これらのことは、インプラントがそのもののみを考慮する前に歯列としての健全性と咬合を考えなければならない段階に至っていることを示すとともに、今後さらに咬合そのものに関して議論を深めてゆかなければならないことをも意味していると考えられます。（座長 前田芳信）

市民公開シンポジウム

患者の皆さんと共に創る
食べる喜び

座長：赤川安正（広島大）

講師：佐藤（佐久間）りか（お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員）

「＜患者の語り＞のデータベース DIPEx に学ぶ」

和田 努（医療ジャーナリスト）

「患者と医療者が支えあう歯科医療」

和田 勝（国際医療福祉大学大学院教授，NPO 歯科医療情報推進機構副理事長）

「患者の求める歯科医療機関」

角町正勝（歯科医師，長崎市開業）

「あきらめないで口から食べる」

今までの学術大会のなかで初めて行われたこの市民公開シンポジウムは、患者の皆さんの目線からみる現在の補綴歯科治療の実情を明らかにして、食べる喜びを取り戻すために今後私たちが行わなければならないことをまとめ、患者中心の医療をさらに進めるための提言を学会に行う目的から企画されました。

まず、座長がシンポジウムの趣旨を説明し、その後4名のシンポジストに補綴でない目線から



講師の先生方

講演をいただきました。

佐藤（佐久間）りか先生（お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員）は、オックスフォード大学で作られた患者の「語り」のデータベース・DIPExについてビデオを交えながら、これが患者への情報提供となること、学生教育にも使われることなどを説明され、歯の健康をめぐる患者の経験を臨床に生かすようデータベース化すべきと提言されました。

和田 努先生（医療ジャーナリスト）は、医療は医療者と患者の共同作業によるものであることを強調され、「支えあう（Interdependence）」重要性について説明されました。また、口は幸福の器官であることから、歯科は全人的にケアすべく患者と向き合って欲しいと提言されました。

和田 勝先生（国際医療福祉大学大学院教授）は、データをもとに、医療と歯科医療をとりまく環境のなかで患者の視点からみる歯科のあり方として、①治療前の十分な情報提供、②治療の標準化、③歯科医院の情報開示、④歯科に対する国民的共感の獲得、などを強調され、保険外負担をわかりやすく区分けすること、かかりつけ医と専門医の連携などについて提言されました。

角町正勝先生（長崎市開業）は、歯科医師は従来より健康な人しか診ていなくこれを変えないといけないと強調され、「口から食べることがヒトとしての生きる基本である」ことを踏まえ、生活者の視点から口腔ケア・口腔機能リハビリテーションを行っている実情を説明され、口が壊れて食べられなくなった方に対する新しい装具の研究などを学会が行うよう提言されました。

これらの講演を受けて、平井理事長も一緒に参加して聴衆との活発な質疑があり、最後に平井理事長がシンポジストからの提言を学会としてしっかり受け止め進めていきたいと感謝の言葉とともにまとめられました。

新しい試みである市民参加型の企画、次回以降にも新しいイメージでつながることが期待されます。（座長 赤川安正）

教育セミナーⅠ

咬合を取り巻く心身医学的な疾患・障害の理解

座長：築山能大（九州大）

講師：鱒見進一（九歯大）

「補綴装置や咬合の不定愁訴に対する対応」
玉置勝司（神歯大）

「かみ合わせ外来における咬合治療の経験から」

久保千春（九大医）

「咬合症状を有する患者の精神医学的診断と治療」

今回の教育セミナーⅠでは「咬合を取り巻く心身医学的な疾患・障害の理解」をセッションのテーマとさせていただき、補綴臨床の現場で診察する可能性がある咬合や補綴装置に関わる難症例：かみ合わせの不具合や異常感、補綴装置に対する不満を執拗に訴えるにもかかわらず、それを説明できる客観的な異常所見が見つからない症例等、に対する診察・治療について理解を深めていただくことを目的としました。

鱒見進一先生（九州歯科大学口腔機能再建学講座顎口腔欠損再構築学分野 教授）には「補綴装置や咬合の不定愁訴に対する対応」と題し、ベテランの補綴歯科専門医の立場から、医療現場でのご苦勞を交え、コミュニケーションによる医療者-患者関係の確立が重要であること、特に初診時の医療面接がきわめて重要であることを強調していただきました。玉置勝司先生（神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講座歯科補綴学分野、神奈川歯科大学附属病院かみ合わせ外来 講師）には「かみ合わせ外来における咬合治療の経験から」と題し、これまた医療現場でのご苦勞をバネに、心療歯科専門医、精神科医によるリエゾン診療体制を確立するまでの経緯、および米国精神医学会の DSM-IV-TR 多軸診断法を基に考案した K 式多軸診断法についてもご紹介いただきました。最後に、久保千春先生（九州大学大学院医学研究院心身医学教授）には「咬合症状を有する患者の精神医学的診断と治療」と題し、心療内科専門医の立場から、心理テストを補助診断として用いた社会心理的因子の評価、DSM-IV-TR の紹介とそれに基づく精神医学的診断の実際についてご講演いただきました。そして最後に、精神医学的問題がありそうな患者さんを心療内科・精神科へ紹介する際のコツについてメッセージをいただきました。なお、先

生方のご講演の内容については、誌上にておまとめいただく予定ですのでご期待下さい。

当日は、学会の初日にもかかわらず大勢の先生方にご出席いただきありがとうございます。この分野はまだまだ整理できていないことが多く、必ずしも的確な答えが得られない場合も少なくありません。本セミナーを機に少しでも多くの会員の先生方がこの問題に興味をもってくださり、学会としてさらなる情報発信ができることを期待いたします。

（座長 築山能大）

教育セミナーⅡ

補綴治療に関するガイドライン策定に向けて

座長：佐々木啓一（東北大）

講師：佐々木啓一（東北大）

「補綴歯科における診療ガイドラインの必要性」

志賀 博（日歯大）

「補綴治療に関するガイドライン策定に向けて」

診療ガイドラインは、医療の標準化と社会への説明責任を果たすうえで必須となっています。今、求められているものは EBM に基づいた一定の作成手順に則った診療ガイドラインです。欧米の医歯系ならびに本邦の医科系では、各専門学会が主体となってガイドラインを策定し、政府系の公的機関が認証するシステムをとっておりますが、本邦の歯科系ではそのようなシステムも確立しているとは言いがたく、また各学会等のガイドラインに関する認識も決して正確ではありません。

歯科補綴学、補綴歯科臨床に関する専門学会である本学会は、補綴歯科治療に関するガイドラインの整備にあたって主体的、社会的な責務を有します。そこで本教育セミナーは、赤川前理事長の緊急発議のもと、会員が今日求められる診療ガイドラインについての正しい知識を共有し、そのうえで EBM の集積が難しい補綴歯科治療に関し、社会的に認められるガイドラインを策定するための方向性を考えることを目的に設定されました。

講演は、まず佐々木から EBM に基づく診療ガイドラインの標準的な作成方法、その評価について概説し、さらに補綴治療ガイドライン策定に際し参考となりそうな医科系のガイドラインについて紹介しました。次いで、前期執行部において

「リラインとリベースのガイドライン」を策定した経験を踏まえ、志賀先生から補綴歯科治療の診療ガイドラインを、いかに標準的な方法に準じながら策定していくべきかをご講演いただきました。実際には、補綴関連の診療ガイドラインを作るとは大変な困難を伴う作業となります。また歯科系のガイドラインは、今後、厚労省の指導のもと日本歯科医学会が策定するという流れになるかもしれませんが、本学会としての診療ガイドラインを整備していくことは、教育上また対社会的に大きな意義のあることを改めて認識しました。
(座長 佐々木啓一)

研究セミナー 統計解析を踏まえた歯科補綴学研究計画

座長：田上直美（長崎大）
講師：田上直美（長崎大）
「研究計画についてこれだけは知っておこう」
横山徹爾（国立保健医療科学院）
「例題で学ぶ研究計画と統計解析」

研究における「統計学」の重要性は誰もが知るところです。本大会の研究セミナーは、もはや恒例となった感もある「統計セミナー」でした。

今回は、実践力を身につけることを目的として、統計を踏まえた「研究計画」を題材としたセミナーとしました。田上（長大）は研究計画総論を、三度目のご講演をお引き受けいただいた横山徹爾先生（国立保健医療科学院）には、補綴分野における典型的研究モデルとして、

- ①無作為化比較試験「総義歯患者におけるインプラントアタッチメント 2 種類の満足度調査」
- ②準実験的研究～観察研究「ファイバーポストもしくはメタルコアで支台築造した単根歯の生存率比較」
- ③材料実験「義歯床用レジンとリベース材間の接着強さにおける表面処理剤の影響」

の研究計画各論についてご講演いただきました。

横山先生のご講演は、補綴臨床関連の統計解析を分かりやすくご説明いただいたもので、大変理解しやすくかつ実践的で、研究に携わるすべての会員に有意義であったと思います。受講者数が多く、しかも熱心に耳を傾ける受講者ばかりだったことが印象的でした。横山先生は質疑応答の後も質問攻めに遭うほどで、補綴学会会員の統計への

高い関心を窺い知ることができました。統計が補綴関連の研究と深く関連していることを再確認したセミナーでした。

横山先生のご講演内容は下記よりダウンロードできます。受講できなかった先生方もぜひご活用下さい。

<http://www.niph.go.jp/soshiki/gijutsu/staffs/yokoyama/etc/hotetsu2007.pdf>

(座長 田上直美)

臨床スキルアップセミナー

接着ブリッジを成功させるために

座長：熱田 充（長崎大）

講師：安田 登（東京支部）

「機能回復と MI の両立を目指して」

近藤康弘（中国・四国支部）

「15 年生存率から学べたデザインの重要性について」

テーマが「接着ブリッジ」に限局されていますので、新任の教授ではなく豊富な臨床例をお持ちのお二人の臨床家に講師を依頼しました。本学会で「接着ブリッジ」に 2 時間余を割くのは 10 年前の長崎でのシンポジウム以来です。その時は 15 年後の臨床経過をめぐって討論し、結論を「ガイドライン」として商業誌上に提案しましたが、さらに 10 年経って知見も深まり、新たな展開への期待が高まってきました。

安田 登先生は歯の欠損が疾病が障害かと問い、障害なので医療モデルでなく生活 QOL モデルが適用され、その「機能回復」は患者の選択に左右される、健全歯を傷つけず、支台歯を最優先し、歯を助けることが大切で、再装着できることが「MI」の最大の成功であると強調されました。維持力がどこまで必要かは最終目的の求め方で異なるとされました。初期の試行錯誤の失敗例から、便利で有利な使用法まで多数の臨床例を示され、それらから導き出された、良好な経過をたどるための 6 つの条件を提示されました。

近藤康弘先生は、日本での接着ブリッジの草分けである山下 敦先生と一緒にスズ電析を開発されて以来の四半世紀にわたる臨床経験を振り返りつつ、豊富な臨床例を供覧されました。シャベル状で薄い日本人の前歯に適した「リテイナーデザイン」や臼歯デザインの重要性を「15 年生存率」を踏まえて提示されました。デザインの必須 3 要

素として維持(面積を広く), 支持(剛体化を図る), 把持(チャンネル付与)を強調されました。

接着性レジンとして, 安田先生は PMMA 系, 近藤先生はコンポジット系の製品を一貫して使用されており, 最後に両先生への質問を予定していましたが, 時間がなくなり残念でした。タイミングよく, 寺田善博教授らの「接着ブリッジのガイドライン作成委員会」から小冊子が会員の手元に届けられましたので, 論点の整理等はそちらを参照していただくことにして終了としました。

(座長 熱田 充)

歯科技工セッション

オールセラミック修復の最新情報

座長: 末瀬一彦 (大歯大)

講師: 末瀬一彦 (大歯大)

「セラミッククラウンの変遷」

山田和伸 (東海支部)

「CAD/CAM オールセラミックスの新潮流・ジルコニア」

増田長次郎 (カロスデンタルジャパン)

「包括的審美補綴におけるオールセラミックスの位置付け」

当学会において「歯科技工セッション」も恒例となり, 歯科技工に興味をもっておられる学会員の先生方が, 毎回熱心に聴講していただいています。今回の学術大会では「オールセラミック修復の最新情報」のテーマで, 増田長次郎先生(カロスデンタルジャパン)と山田和伸先生(カナレテクニカルセンター)および末瀬一彦が担当させていただきました。近年, 国民の「白い歯」に対する意識の向上とともに, 歯科界においてもアルミナ, ジルコニアなどの新素材が開発され, また一方では補綴装置の製作方法においても素材の特性をそのまま生かせる CAD/CAM システムが導入されてきました。セッションのはじめでは, 末瀬がポーセレンジャケットクラウンやキャストクラウンの時代から現在の CAD/CAM システムが導入されるまでの変遷について説明し, アルミナやジルコニアの特性とともに CAD/CAM システムの優位性, さらには歯科技工における歯科医師と歯科技工士とのコラボレーションの重要性について講演しました。続いて増田先生には新素材を用いた審美修復のなかでの機能的配慮ならびに歯周組織との関わりについて示唆され, チェアサイ

ドとラボサイドの役割分担について講演されました。山田先生はジルコニアの特性について詳細に説明され, ポーセレンワークの極意を示されるとともに近日中に発売予定の国産 CAD/CAM システムの概要についても講演されました。現在, 歯冠修復にあっては加速度的に審美材料や術式の開発が行われ, 国民の心身の健康に携わっている私たちにとってこれらの分野における情報は常に新鮮なものでなければなりません。今回の歯科技工セッションにおいても, 審美的歯冠修復の現状が明らかにされたと思います。聴講されました約 300 名の会員の皆様方のご協力に感謝申し上げます。

(座長 末瀬一彦)

歯科衛生士セッション

●講演: 歯科衛生士業務の展開—補綴歯科診療の補助について—

座長: 森戸光彦 (鶴見大)

講師: 石井拓男 (東歯大)

日頃, とともに臨床に携わっている歯科衛生士の仕事を正面から見つめ直し, さらに充実した協力体制を築くために, 石井拓男先生と 4 名の歯科衛生士にお話を頂きました。石井先生からは, これまであまり意識されることのなかった「歯科行為の補助業務」について, 具体的な業務内容を例に挙げてご講演頂きました。歯科助手的な仕事だけしか行っていなかった歯科衛生士や, 歯科衛生士の業務範囲を誤解していた歯科医師にとっては, 今後の研鑽が望まれるところであります。また, 歯科衛生士教育が 3 年制になった時の教育内容にも多大な影響を与えるものと感じられました。さらに, 「医療法の改正」が行われ診療の場の整備についてかなりの改善と意識の改革が必要であること, 「社会保障審議会に歯科医師と歯科衛生士が加わった」ことで, 歯科医師の役割に大きな期待があること, 「NST と口腔ケア」「新健康フロンティア: 歯の健康力」「介護予防」など, 目前に迫っている超高齢社会に向けて歯科医療の果たすべき役割が大きいこと, 特に歯科医師と歯科衛生士の共同作業が重要であることなど, 盛り沢山の内容でご講演頂きました。

石井先生の講演に引き続いてシンポジウムが行われ, 会場を交えての活発な討論が行われました。

歯科医師が歯科衛生士の業務を十分に理解すること、歯科衛生士が力を十分に発揮できる環境を整えなければならないこと、それぞれの専門性を十分に理解してよりよい歯科臨床を構築しなければならないことなどが述べられるなど、今後の展望として有意義なシンポジウムでした。

(座長 森戸光彦)

●シンポジウム：補綴臨床における専門的口腔ケア

座長：小野高裕（大阪大）

講師：鈴木朋湖（大阪 SJCD）

「クラウンブリッジ症例の口腔ケア」

小谷康子（医療法人藤原歯科医院）

「有床義歯症例の口腔ケア」

上原弘美（神戸市立医療センター中央市民病院）

「インプラント症例の口腔ケア」



講師の先生方

今回のシンポジウムは、まず専門的歯科補綴治療を実践されている歯科医療機関で活躍されている歯科衛生士3名に登壇していただき、それぞれの業務の展開を報告していただきました。はじめに鈴木先生より「クラウンブリッジ症例」を中心に、歯周組織を健全に保つ補綴装置の軸面形態を実現するための、歯科医師、歯科技工士との共同作業について報告していただき、続いて小谷先生より独自に行った「有床義歯症例」の意識調査の結果と、義歯の構造ならびに患者のスキルを考慮したデンチャープラークコントロールの実践をご紹介いただきました。最後に、上原先生より「インプラント症例」について、クリニカルパスにおける指導とPMTCの重要性、患者の口腔衛生意識の劇的な変化について供覧していただきました。その後、基調講演をされた石井先生にもご登壇いただき、森戸先生とともにダブル座長で会場から意見・質問を受けて4人の講師にお答えいただく時間をもちました。

本シンポジウムは、歯科医師と歯科衛生士の高

次元のコラボレーションによって得られる治療効果の可能性を示すとともに、両職種の専門性をより高める起爆剤となることを期待して企画されたものですが、会場からは予想に違わぬ反応があり、歯科医師自身が歯科医師の奮起を促す声や、歯科衛生士教育に携わる教員からの共感が表明されました。座長を担当しながら、時間の関係でセッションを閉じなければならないのが残念に思えるような、充実したひとときでした。今後、補綴学会として認定衛生士制度の構築に向けた取り組みを行ううえでも、一つの起点になったのではないのでしょうか。最後に、本企画をコーディネートされた大阪歯科大学附属歯科衛生士学校の八尾校長先生に終始お世話になりましたことを深謝申し上げます。

(座長 小野高裕)

専門医研修 補綴装置に付与すべき咬合接触 —全部床義歯について—

座長：市川哲雄（徳島大）

講師：小出 馨（日歯大新潟）

「無歯顎補綴に有利な咬合接触」

村岡秀明（東関東支部）

「顎堤吸収の著しい症例（LevelⅢ）への対応」

全部床義歯の咬合接触をキーワードに、日本歯科大学新潟生命歯学部の小出 馨先生には咬合様式、特にリンガライズドオクルージョンの理論と実際について大変わかりやすく、簡潔に説明いただきました。次に、千葉県市川市で開業の村岡秀明先生にはチェアサイドでの実際の全部床義歯の咬合調整について、ビデオを使って、大変わかりやすく、また面白く説明いただきました。そのあと、20分ほどディスカッションを行い、終了いたしました。参加者は立ち見まで出る多さで、盛況で意義深い研修会でした。

(座長 市川哲雄)

第5回アジア補綴歯科学会の総括

アジア補綴歯科学会会長 古谷野 潔

第5回アジア補綴歯科学会（AAP：Asian Academy of Prosthodontics）が、社団法人日本補綴歯科学会（JPS：Japan Prosthodontic Society）第116回学術大会との共催で、「国際補

綴歯科学会神戸 2007」として、5月18日～20日に神戸市にて開催されました。

AAPは1999年に設立され、2年に一度、アジア各国の歯科補綴学の専門家が一堂に集い学术交流を行ってきました。これまで第1回のソウル大会以来、シンガポール、台北、バンコックで開催され、今回の神戸での大会は日本では初めての開催となります。

Prof. Rosenstiel, Prof. Garrettの2名の米国からの特別講演者に加え、アジア各国からの招待講演10題、free oral paper 14題、poster paper 68題とAAPの歴史上演題数は最多でした。また、8カ国から130名以上が参加しました。日本からの参加者抜きでこの参加者数はおそらく過去最大と思われます。また、中国からは37名という大人数の参加があり、インドからは初めて本格参加(11名)があるなど、AAPの歴史のうえでも記録と記憶に残る大会となりました。

また、優秀な口演発表に贈られるKim Award

は、Dr. Namrath Chatchaiyan(日歯大新潟)に、優秀なポスター発表に贈られるHiranuma Awardは、Dr. Yoichiro Oginoに贈られました。

アジアは地域的にも広く、文化、宗教、生活習慣、経済情勢、そして医療、歯科医療の状況も大いに異なる国々からなります。JPSは、その規模や歴史においても、また学術活動の質・量ともにアジア各国の補綴学会では抜きん出ています。今回、アジアにおけるJPSのリーダーシップをしっかりと示すことができたものと思います。

大山会長時代に、JPSも学会としてAAPを支えることとし、JPSから理事長、総務担当理事、国際渉外担当理事がAAPの役員に就任することになっています。2年に一度開催されるAAPは、次回の2009年にはソウルで、そして2011年には上海で開催される予定です。今後もAAPの中心的存在であるJPSの会員諸氏がAAPに積極的に参加され、アジアの補綴学を盛り上げていくことを願う次第です。



懇親会のひとこま



ガラディナー

受賞者紹介

第 116 回学術大会の課題口演コンペティション優秀賞，デンツプライ賞受賞者をご紹介します。

課題口演コンペティション優秀賞

- 2-1-7 嚙下ビデオ内視鏡検査と口蓋に対する舌圧の時間的關係
○古屋純一（岩手医大）
- 2-1-9 下顎領域の腫瘍患者における咀嚼能力の回復に影響を及ぼす因子
○城下尚子（大阪大）
- 2-2-6 臼歯喪失がラットの学習・記憶に及ぼす影響—回避実験と脳内グルタミン酸の同時分析—
○松野彰仁（大歯大）
- 2-2-7 持続反復筋収縮はラット咬筋組織における IL-6 遺伝子の発現を亢進する
○小野 剛（岡山大）
- 2-3-4 光誘起超両親媒性チタン表面におけるオッセオインテグレーションの早期獲得
○會田英紀（北海道大, UCLA 大）
- 2-3-6 顎堤骨吸収における TRAF1 遺伝子の関与
○牧平清超（広島大）
- 2-4-7 電子サイクロトロン共鳴プラズマ酸化によるチタニア膜生成とその石灰化能に関する検討
○折居雄介（東北大）
- 2-4-9 脂肪族ビニルエステルを可塑剤とするアルコールフリー粘膜調整材の開発
○田仲持郎（岡山大）

デンツプライ賞

- 2-6-25B 可撤性部分床義歯の受容に関する因子および満足度の検討
○小山重人（東北大）
- 2-6-30B 簡易嚙下障害スクリーニングシステム法の開発：磁気センサを用いた測定法の概要
○本釜聖子（徳島大）
- 2-6-38A 補綴歯科治療による咬合回復が高齢者の QOL・ADL に与えるインパクト
○内田昌範（大阪大）
- 2-7-20A ビスフォスフォネート全身投与によるサル下顎骨の顎骨壊死
○田中みか子（新潟大）
- 2-7-21A bFGF 製剤の骨髄腔内注入によるインプラント埋入部位歯槽骨の骨密度改善
○大島正充（岡山大）
- 2-9-23A A Comparative Study on the Retention of Implant Overdenture According to the Shape and the Number of Magnetic Attachment
○Yu-Sung Choi (Dankook University)

*発表者のみ記載



デンツプライ賞

平成19年度日本補綴歯科学会 支部学術大会予定一覧

東北・北海道支部

日程：平成 19 年 11 月 10 日（土），11 日（日）
会場：Otaru Hilton（小樽市）
大会長：越智守生（北医療大）
実行委員長 廣瀬由紀人（北医療大）

関越支部

日程：平成 19 年 10 月 7 日（日）
会場：栃木県歯科医師会館
大会長：渡邊文彦（日歯大新潟）

東関東支部

茨城県歯科医学会と同日、別会場で開催
日程：平成 20 年 3 月 16 日（日）
場所：茨城県総合福祉会館
大会長：川良美佐雄（日大松戸）

東京支部

日程：平成 19 年 12 月 1 日（土）
会場：東京医科歯科大学歯科棟 4F 特別講堂
大会長：五十嵐順正（医歯大）
企画については、検討中

西関東支部

日程：平成 20 年 1 月
大会長：細井紀雄（鶴見大）

東海支部

未定.

関西支部

日程：平成 20 年 1 月 27 日（日）
会場：大阪大学中ノ島センター ホール
大会長：前田芳信（大阪大）

中国・四国支部

日程：平成 19 年 9 月 1 日（土）、9 月 2 日（日）
場所：ホテルクレメント徳島、徳島県歯科医師会館
大会長：井上三四郎（徳島県）
名誉大会長：和田明人
準備担当：徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔顎顔面補綴学分野
連絡先：〒 770-8504 徳島市蔵本町 3 丁目 18-15
Tel：088-633-7347
Fax：088-633-7461
E-mail：Hotetsu1@dent.tokushima-u.ac.jp
スケジュール（予定）
9/1（土） 市民講座，理事会，評議員会，懇親会
9/2（日） 総会，ポスタープレゼンテーション，

認定医プレゼンテーション，一般講演，特別講演，生涯研修セミナー，法人会員展示

・市民講座「歯の健康とストレス」
徳島大学ストレス研究センター長 六反一仁
・特別講演「歯科補綴を次世代に引き継ぐ」（仮題）

座長：皆木省吾

講師：濱田泰三，中尾勝彦，坂東永一

・生涯研修セミナー「顎関節症 こんな人が来たら？」（仮題）

座長：窪木拓男

講師：中野雅徳，羽田 勝，和気裕之

なお，支部学術大会ではありませんが，同時期に下記を開催の予定

(社)日本補綴歯科学会中国・四国支部
補綴歯科サマースクール 2007

日程：平成 19 年 8 月 31 日（金）、9 月 1 日（土）
場所：ルネッサンスリゾート鳴門

担当教室：徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔顎顔面補綴学分野（市川哲雄）

概要：学会の指導的立場の会員，学会，大学，医療現場で実質的な活動をしている中堅会員，そして未来を担う若手会員が一堂に交流する場をもち，教育講演，中堅会員によるセミナー，若手会員の研究発表を通じて，過去，現在，未来の価値観を共有し，目的のための議論を進める予定

九州支部

日程：平成 19 年 11 月 11 日（日）
会場：九州歯科大学講堂
大会長：鱒見進一（九歯大）
担当：九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野
〒 803-8580 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1
準備委員長 有田正博
(E-mail：m-arita@kyu-dent.ac.jp)
Tel：093-582-1131
Fax：093-582-1139

スケジュール

11 月 10 日（土）：理事会，支部会員親睦会，懇親会

11 月 11 日（日）：一般口演，特別講演，市民フォーラム，専門医申請ポスター発表

*一般講演（口演発表のみ，PC 単写）

*演題申込：平成 19 年 7 月 31 日（火）必着
*抄録締切：平成 19 年 8 月 31 日（金）必着
10：30-11：30 市民フォーラム
テーマ「磁石の義歯で快適ライフー知っていますか。マグネットデンチャーってー」（仮題）
講師：鱒見進一（九歯大）
座長：有田正博（九歯大）
13：00-14：00 特別講演
テーマ「歯科診療における口腔乾燥への臨床的対応」（仮題）
講師：柿木保明（九歯大 摂食機能リハビリテーション学分野 教授）
座長：鱒見進一（九歯大）

関連学会案内

第 20 回日本顎関節学会学術大会

会 期：平成 19 年 7 月 14 日（土）、15 日（日）
会 場：仙台国際センター
大会長：渡邊 誠（東北大学大学院歯学研究科加齢歯科学分野）

連絡先：〒 980-8575 宮城県仙台市青葉区
星陵町 4-1
東北大学大学院歯学研究科加齢歯科学分野内
第 20 回日本顎関節学会大会事務局
Tel：022-717-8395
Fax：022-717-8399
E-mail：jstmj-office@umin.ac.jp

第 48 回日本歯科医療管理学会学術大会

会 期：平成 19 年 7 月 14 日（土）、15 日（日）
会 場：長崎ブリックホール国際会議場
大会長：道津剛佑（長崎県歯科医師会会長）

連絡先：〒 852-8104 長崎県長崎市茂里町
3-19
長崎県歯科医師会内
第 48 回日本歯科医療管理学会学術
大会事務局
Tel：095-848-5311
Fax：095-846-0175
E-mail：office@nda.or.jp

第 24 回日本顎顔面補綴学会学術大会

会 期：平成 19 年 7 月 20 日（金）、21 日（土）
会 場：いわて県民情報交流センター（アイーナ）
大会長：水城春美（岩手医科大学歯学部口腔外科学第一講座）

連絡先：〒 020-8505 岩手県盛岡市中央通
1-3-27
岩手医科大学歯学部口腔外科学第一
講座
第 24 回日本顎顔面補綴学会総会
Tel：019-651-5111（内線 4317）
Fax：019-651-9164
E-mail：congress-mfp@iwate-med.ac.jp

第 15 回日本歯科色彩学会学術大会

会 期：平成 19 年 7 月 22 日（日）
会 場：鶴見大学会館
大会長：桃井保子（鶴見大学歯学部第一歯科保存学教室）

連絡先：〒 170-0003 東京都豊島区駒込
1-43-9
（財）口腔保健協会コンベンション事
業部内
第 15 回日本歯科色彩学会学術大会
事務局
Tel：03-3947-8761
Fax：03-3947-8873
E-mail：gakkai20@kokuhoken.or.jp

第 18 回 NPO 法人日本咀嚼学会学術大会

会 期：平成 19 年 8 月 25 日（土）、26 日（日）
会 場：千里ライフサイエンスセンター
大会長：野首孝祠（大阪大学先端科学イノベーションセンター）

連絡先：〒 565-0871 大阪府吹田市山田
丘 1-8
大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機
能再建学講座内
NPO 法人日本咀嚼学会第 18 回学術
大会事務局

第 18 回日本歯科審美学会・第 26
回日本接着歯学会合同学術大会事務局
Tel : 03-3947-8761
Fax : 03-3947-8873
E-mail : gakkai2@kokuhoken.or.jp

**第 50 回日本歯科理工学会学術講演会
ならびに国際歯科材料会議 2007**

会 期：平成 19 年 11 月 21 日(水)～24 日(土)
会 場：タイ・バンコク
The Imperial Queen's Park Hotel
大会長：宮崎 隆（昭和大学歯学部歯科理工学講
座）

連絡先：〒 170-0003 東京都豊島区駒込
1-43-9
(財) 口腔保健協会内 日本歯科理工
学会
国際歯科材料会議 2007 準備委員会
Tel : 03-3947-8891
Fax : 03-3947-8873
E-mail : IDMC2007@kokuhoken.or.jp

第 17 回日本全身咬合学会学術大会

会 期：平成 19 年 11 月 24 日(土), 25 日(日)
会 場：浦添市産業支援振興センター
大会長：宮城正廣（みやぎ歯科医院）

連絡先：〒 900-0021 沖縄県那覇市泉崎
2-2-2
みやぎ歯科医院
第 17 回日本全身咬合学会学術大会
Tel : 098-832-3012
Fax : 098-854-3362

第 24 回（有中）日本障害者歯科学会学術大会

会 期：平成 19 年 11 月 24 日(土), 25 日(日)
会 場：長崎ブリックホール国際会議場, 長崎新
聞文化ホール
大会長：道津剛佑（長崎県歯科医師会会長）

連絡先：〒 852-8104 長崎県長崎市茂里町

3-19
長崎県歯科医師会内
第 24 回日本障害者歯科学会学術大
会準備委員会
Tel : 095-848-5311
Fax : 095-846-0175
E-mail : office@nda.or.jp

第 19 回日本レーザー歯学会学術大会

会 期：平成 19 年 11 月 24 日(土), 25 日(日)
会 場：鶴見大学記念館
大会長：新井 高（鶴見大学歯学部第二歯科保存
学教室）

連絡先：〒 230-8501 神奈川県横浜市鶴見
区鶴見 2-1-3
鶴見大学歯学部第二歯科保存学教室
第 19 回日本レーザー歯学会大会事
務局
Tel : 045-581-1001
Fax : 045-573-9599
E-mail : yamaguchi-h@tsurumi-u.ac.jp

お 知 ら せ

4 月から下記の体制で事務局運営を行っております。

事務局長 小西弘志
事務局員 加藤路子
佐藤千世子
金子ひとみ（口腔保健協会）

(連絡先)
事務局電話：03-5940-5451
事務局 Fax：03-5940-5630
口腔保健協会電話：03-3947-8891（金子）
口腔保健協会 Fax：03-3947-8341

事務局は会員以外の外部の方からの問い合わせ
に対応しています。会員からの問い合わせは口腔
保健協会（金子）のほうにお願いいたします。

会員登録状況（平成 19 年 3 月 31 日現在）

会員数：6,611 名
（名誉会員：61 名，正会員：6,459 名，準会
員：48 名，賛助会員：43 名）

名 誉 会 員

- 天野秀雄先生 (明海大学歯学部歯科補綴学分野)
甘利光治先生 (松本歯科大学顎口腔機能制御学講座)
川和忠治先生 (昭和大学歯学部歯科補綴学教室)
畑 好昭先生 (日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第2講座)
早川 巖先生 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科全部床義歯補綴学分野)
※所属は退職時

ICP 福岡大会への登録料の特別割引

ご存知のように、本年9月に第12回ICP (International College of Prosthodontists) が、福岡で開催されます。このICP 福岡大会への登録料の本学会会員に対する特別割引についてご案内申し上げます。

本特別割引は、本学会会員であれば、ICP 会員でなくとも、ICP 会員と同じ料金でICP に登録できるもので、本年はICP が日本で開催されるために特別に設けられたものです。非会員で登録するのに比べ\$200も割安になります。さらに、6月末までに登録を済ませると、非会員の当日会費に比べ、実に\$340低額になります。この機会にぜひともICP 福岡大会への参加をご検討下さい。

なお、ICP 福岡大会の詳細については大会HP <http://www.icp-org.com/> をご覧下さい。

登録の具体的方法は以下の通りです。

1) 本学会会員でICP 会員の方：

ICP 会員として、本学会会員専用登録用PDFファイル (JPS_RegistrationForm) を利用してFax で申し込むか、ICP ホームページからOn line で登録する。

2) 本学会会員でICP 会員でない方：

本学会会員専用登録用PDFファイル (JPS_RegistrationForm) を利用してFax で申し込むか、ICP ホームページからOn line で登録する。

なお、2) の方法でOn line での登録方法は代議員にお尋ね下さい。

最も低料金の事前登録締め切り日 (6月末) が近づいていますので、参加をご検討の方は早めに手続きをされますよう重ねてご案内申し上げます。

編 集 後 記

今回の記事にもありますように、広報・社会連携委員会は二つの部会から構成されています。広報・社会連携部会およびホームページ・ニュースレター部会です。二つの部会が協力して、「補綴歯科」および会員の皆様の努力を広くご理解いただくために活動してまいります。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(広報・社会連携委員会委員長、
広報・社会連携部会長 川良美佐雄)

広報・社会連携部会との共同作業で今回初めてニュースレターを作成致しました。まだ流れを十分に把握しておらず、部会員の方々に迷惑をかけるばかりです。ニュースレターを充実させるためにも、会員の皆様の益々のご協力を何卒よろしくお願い致します。

(広報・社会連携委員会・ホームページ・
ニュースレター部会長 鱒見進一)



広報・社会連携委員会メンバー

前列左から：塩山、鱒見、川良、水谷
後列左から：有田、坂井、齋藤、田中、池邊、
岡根、貞森、小見山

社団法人 日本補綴歯科学会

広報・社会連携委員会

委員長 川良美佐雄

広報・社会連携部会

部会長 川良美佐雄 副部会長 水谷 紘

委員 池邊一典 岡根秀明 貞森紳丞

幹事 小見山 道

ホームページ・ニュースレター部会

部会長 鱒見進一 副部会長 塩山 司

委員 齋藤正恭 坂井貴子 田中昌博

幹事 有田正博

Tel : 093-582-1131

Fax : 093-582-1139

E-mail : m-arita@kyu-dent.ac.jp

〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1
九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野